

# メタセコイア

(土屋中学校の樹)

<学校教育目標>

～ 夢に向かって ～

第13号

令和 8年 2月 27日発行

さいたま市立土屋中学校

さいたま市西区土屋1766-1

TEL 048-622-4611

✉ tsuchiya-j@saitama-city.ed.jp

## 『親』

校長 小熊 誠

3年生、2月26日(木)・27日(金)、学年職員の指扇駅と西大宮駅での見送りの下、一生に一度の15歳の勝負を無事終えることができました。全員が納得のいく進路に進むことを信じています。そして、14日後に迫っている、義務教育最大の行事である卒業証書授与式に向け、心も体も整え始めています。いよいよ旅立ちの時です。2年生、明後日3月1日(日)から始まる、中学校最初の宿泊行事である、「館岩自然の教室」に向け、準備万端の状態です。土屋の「味」から「顔」への進化の時です。1年生、先日の「東京校外学習」も満面の笑顔で終え、先輩と呼ばれる日に向け、いい準備の真っ最中です。若葉マークから「味」への一步を踏み出す時です。今、土屋は、令和8年度に向けて、大切な、大事な節目の時を迎えています。そんな中、今月は、「親」についてお話したいと思います。

私の「親」は、昨年オヤジを亡くし、今はオフクロ人となってしまいました。一人っ子であった私は、オヤジとオフクロ(あえてこう呼ばせてください)の愛を一心に受けていたはずですが、自分自身の甘えから、オヤジにもオフクロにもさんざん迷惑をかけ、言い尽くせないぐらい世話になりました。たくさん心配をかけ、たくさん謝ってもらいました。そんな私も既に還暦を過ぎ、いい歳になっています。しかし、オヤジとオフクロすなわち「親」にとっては、いつまでたっても「子ども」のようです。オフクロは、「飲みすぎるな」「早く寝ろ」「連絡しろ」、まるで子ども扱いです。小うるさくもあり、懐かしくもあり、複雑な気持ちです。オヤジは、昭和一桁頑固一徹、私の言うことなど一切聴こうとしませんし、私の世話など絶対受けないと豪語していました。ところが、そんなオヤジの具合が悪くなりました。あんなに強く、激しかったオヤジが、私に「悪いな」「迷惑かけるな」と涙ぐんで話します。正直私にとって怖くて、大きな存在でしたが、背中が小さく見え、背負うと軽い体、なんだか寂しさを感じました。亡くなる直前、病院に運ぶ時、動けなくなったオヤジを背負う時、「みっちゃん(オフクロの名前です)を頼む」とかすれるような声で呟いた、オヤジ。涙がでました。そんなオヤジとオフクロに私がまだしっかりと目を見て言えていないことがあります。それは、「ありがとう」という言葉です。実はオヤジには、病院で静かに息を引き取るとき、手を握り「ありがとう」と囁きました。しかし、面と向かってしっかりと目を見ながら「ありがとう」とは、とうとう言えませんでした。大後悔です。私は、オヤジとオフクロには心の底から深く感謝しています。しかし、恥ずかしながら、今まで面と向かって目を見てしっかりと口に出して言ったことはありません。私は、3年生との面談練習の中で、卒業まででいいので、御世話になった方々に、しっかりと目を見て「ありがとう」と口に出して伝えてほしいと話しています。実はこれは、私自身に向かって発した言葉でもあります。残念ですが、私も含め、生徒たち、もしかしたら保護者・地域の皆様も、何かがないと、オヤジとオフクロ、すなわち自分の「親」と正面から向き合うことは難しいのかもしれないかもしれません。まさに今、大事な節目を迎えている土屋。生徒たちには、この機会に「親」と向き合い、「ありがとう」を言ってみようと話しています。特に3年生には、今が、「親」に心から、真正面から「ありがとう」と言える最大のチャンスであり、言えたその時から、本当の親離れ、旅立ちが始まるのかもしれないと伝えています。そして私自身も、オヤジに伝えられなかった分も含め、今こそオフクロに長年ため込んでいた「ありがとう」を、感謝の気持ちをぶつけ、前に進むつもりです。皆様も節目節目に御自身の「親」を思い浮かべ、真正面から「ありがとう」を口に出して言ってみてください。きっと絆がさらに深まり、感謝の心を力に変え、一步前に、「メガ進化」へと繋がるはずです。

3月13日(金)第40回土屋中学校卒業証書授与式、土屋が、たくさんの「ありがとう」で溢れることを楽しみにしています。



希望の登校

笑顔の活動

満足の下校